NO.84.2004.11.30.

"Essay 大賞" 受賞者 柴田なつみさんより チェル救に賞金 50 万円 贈呈される！

医療用画像診断装置メーカー「GE 横河メディカルシステム㈱」主催の「Essay 大賞」は、受賞者本人が希望する医療福祉関連施設や団体に、賞金の半額（50 万円）を贈呈するシステムとなっています。

11 月 19 日、今年度の大賞受賞者柴田なつみさん（岡山市在住／写真右側）は、賞金を「チェルノブイリ救援・中部」に託し、「ウクライナ国ジトーミル州立小児病院血液科」の支援を希望されました。私達は、喜んで橋渡し役となり、柴田さんのご好意を現地に届けたいと思います。

（尚、受賞作品は、週刊「AERA」（11 月 8 日号）に、全文掲載されています。）

＜柴田なつみさんのコメントより抜粋＞

チェルノブイリの事故がおきた時、私は中学生だった。翌日は雨が降って、「この雨に濡れると、髪がなくなるらしい」とみんながおびえていた。テレビでは、東欧で、子どもを抱えた母親がヨードを求めて薬屋に殺到していた。生まれて初めて、自分は世界の人と同じ水を使い、同じ空気を吸っているのだと感じた。（中略） 子ども達には、事故の後遺症で健康な子どものほうが少ないという。乳がんの検査をためらう人に、癌の治療を受けたくても受けられない子どもたちのことを考えてほしいと思う。医療制度が整い、経済力のある国に生まれた幸福とともに。

〒466−0822　名古屋市昭和区楽園町１３７　１−１０
チェルノブイリ救援・中部　代表：田中良明
郵便振替：00880−7−108610
TEL/FAX：052−836−1073（月・水・金　10:00〜17:00）
E−mail：chqchubu@muc.biglobe.ne.jp
ホームページ：http://www.chernobyl-chubu-jp.org

締切迫る!! X'masカード&ミルクキャンペーン

（12月10日必着）　　（12月末日）

「チェルノブイリ救援・中部」で行われる年末恒例行事に、「ミルクキャンペーン募金」と「クリスマスカードキャンペーン」があります。ポレーシェをご愛読のみなさんにとっても、このふたつは馴染み深いものでしょう。汚染された土壌に生える牧草を食む牛のミルクは、放射能を含みます。二次・三次の被曝を防ぐために、苦労して日本から粉ミルクを送った昔話を、「救援・中部」のベテラン達から聞くことがあります。その後、ようやく現地での粉ミルク調達が可能になり、日本からの支援は、「粉ミルク購入費の送金」に変わりました。そんな今でも、ジトーミルの病院や孤児院では、「救援・中部」の支援により、多くの子ども達がミルクや栄養食を摂っています。

さて、先日「事務局訪問ツアー（ポレーシェ84号12ページで紹介）」に参加してチェル救を見学した若者達を含めて、この「ミルクキャンペーンを背負って立とう！」と、意気あふれる精鋭が集まりました。このチームは、何度もミーティングを開き、企画を練り、準備をして、チェルノブイリ被害を少しでも多くの人に知ってもらい、またミルク支援費を少しでも稼ぎ出すために、努力を重ねています。その企画のひとつが、こんな形で実現しました。

題して、**"まちの縁側で絵画をジットー見る"**。（？）

企画内容：ジトーミルの子ども達の絵を展示、クリスマスカードも作ってもらう
場　　所：名古屋市東区代官町　**まちの縁側MoMo**（旧家を改装して、さまざまな催し物を立ち上げているNPO法人「まちの縁側育くみ隊」の運営です）
日　　時：**11月29日(月)～12月4日(土)13時～17時**
（12月4日は10時～16時です。チェル救の活動紹介も行います。）
詳しくは、チェル救事務所にお問い合わせください。

その他には、28日のフリーマーケットに出店し、ウクライナグッズなどを販売します。さらに、昨年も協力してもらった山里学童保育所にて、今年も子ども達と一緒にカードづくりを行いました。今回は少し工夫を凝らしました。まずはウクライナ民話で日本でも有名な絵本「てぶくろ」の読み聞かせです。森を歩くおじいさんが手袋を落とし、そこに動物たちがやってきて中に入込み手袋は膨れていきます。動物たちの役を子ども達が演じ、やりとりを楽しみながらウクライナ語の朗読も聞いてもらいました。自分たちが一緒になって劇に参加でき、みんなとても喜んで盛り上がりました。まずウクライナ語を聞き、次にせりふは日本語という順番で違和感なく進められました。次にロシア語の文字の練習をして、子ども達の名前をカードに書いてもらいました。そのあとは色紙を使って切り貼りしたクリスマスカードを一人ひとりが時間をかけてつくり、楽しい時間はおしまいとなりました。

どんな形にせよ、遠くチェルノブイリに暮らす人たちに、本当の関心を持って近づくことができれば、それが互いを知り支え合うための第一歩となるのではないでしょうか。今後も、多くの人たちにウクライナのことを伝え、チェルノブイリ原発事故により、大きな困難を抱えた人々とともに歩むための土台を、しっかりと作り上げていきたいと思います。（石川）

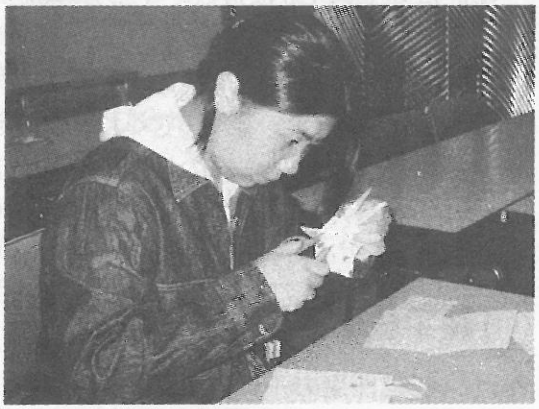
10月ウクライナ講座　*ウクライナ訪問報告会＆クリスマスカード作り*

10月16日(土)、名古屋YWCAで「9月のウクライナ訪問団の報告会」と、一足早い「クリスマスカード作り」を行いました。

今回の訪問では、カタログハウスからの「ナロジチ地区病院とブルシロフ地区病院への医薬品支援」と、外務省「草の根無償支援による医療機器配備」を確認するため、ジトーミル地区とブルシロフ地区の移住者村の診療所3ヶ所を訪ねました。その様子を写真で紹介しながら、代表団メンバー（河田・戸村・市原）の3名が、現地の実情・それぞれの印象などを報告しました。

3名とも3年ぶりの訪問でしたが、最も印象的だったのは、ますます寂れていく北部ナロジチ地区と、それとは対照的にジトーミル市南東に位置するブルシロフ地区の大地の豊かさでした。しかし、厳しい環境のナロジチ地区にあっても、被災住民の健康や生活を守るため心を配る医師たち・消防士たちを、日本からの支援が確かに励ましていると実感した旅でした。

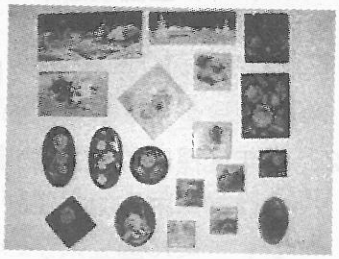
訪問団に同行された日本福祉大の野崎泰志さんの出席も得て、私たちの活動に対して一歩外から見た、かなりうれしい感想と助言をいただきました。しかし、具体的には、今後実施予定の「草の根支援」の事後評価を通して、活動の成果も問題点も見えてくることでしょう。



ティータイムのあと、ウクライナの人びと・子ども達を励ますカードキャンペーンの「クリスマスカード製作」に取り組みました。参加者は何十年ぶりかの「工作」に熱心に取り組み、それぞれの個性で工夫を凝らし、心を込めたカードを仕上げて、カードを受け取る人びと以上にうれしそうで満足げな表情でした。（戸村）

2005「ウクライナ講座」企画ボランティア募集中!!

12月ウクライナ講座のご案内



絵画展「子どもの目で見たチェルノブイリ」

（名古屋YWCA後援）

と　き：12月21日（火）～24日（金）10時～17時

ところ：名古屋YWCA（地下鉄東山線「栄」下車）

TEL：052-961-7707

今年最後のウクライナ講座は、ウクライナの子ども達の「絵画展」です。
子ども達が見た「チェルノブイリのメッセージ」を、ぜひあなたも受け止めてください。
なお、クリスマスにぴったりの「アート・セロー」の子ども達の小さな絵も販売します。

静岡県 蒲原町立図書館で絵画展！

クリスマスカードを製作する子ども＝蒲原町立図書館

ロシア語で「健康にね」

蒲原 チェルノブイリの子へXマスカード

ウクライナ共和国チェルノブイリの孤児院や病院の子どもたちに贈るクリスマスカードを作るイベントが二日、蒲原町新田の町立図書館で始まった。同町のNPO法人「子育て支援どろん子」が主催する異文化共生事業で、同会の子どもたちが製作に取り組んだ。

子どもたちは、さまざまな色の台紙に、クリスマスツリーやサンタクロースの切り絵を張り付け、ロシア語で「幸せで健康でね」「幸せがあなたと共に」などと書き加えていった。

このほか、原発事故後の野原や廃虚となった街など、現地の子どもたちが描いた作品約四十点が展示されている。

十四日までのイベント期間中、自由にカードを製作することができる。完成したカードは十二月中旬に現地に送る予定。

<静岡新聞：2004.11.03（水）朝刊>

NPO法人「子育て支援どろん子」異文化交流事業

「ウワァ･･･悲惨だなぁ。子どもが描いたんだよなぁ。」と、つぶやく町の教育委員でもある歯医者さん。子ども達の感性をとても大切にしているので、とてもショックのようでした。

絵画の展示場には、子どもから高齢の方々までいろんな方が見に来ています。

チェルノブイリの子ども達の絵を見ながら、**「知らなかった･･･こんなことになっているなんて。」「村が破滅だ･･･。」「絵がとてもうまいね。･･･生まれた時からずーっとこんな風景しか知らないんだね。」**と真剣に話しています。子ども達の絵のうまさ、表現の仕方、色使いなどに感心する声が多く聞かれました。

「絵には心が映るね」とポツリ･･･。**「このような絵をみたのは初めて･･･。」**と話す声がする中で、今、チェルノブイリの子ども達を思いながら、クリスマスカードを作っています。この“クリスマスカード作り”は、今回で４回目となり、恒例になってきているので、この時期になると、子ども達が作りに来てくれます。11月２日～14日まで、NPO法人「子育て支援どろん子」のボランティアのおばさん達が、図書館内の絵画展示場に常駐し、いつでも作ることができました。図書館側も何かと協力してくれるので助かります。

私達は、これくらいのことしかできませんが、クリスマスカードを喜んでくださる子ども達に贈り続けたいと思っています。

【奨学金事業について】　＊＊＊＊＊＊

１．新規採用の１年延長 決定！

前号でお知らせしました、「奨学生の新規採用の最終年をいつにするか」について、ホステージ基金と協議した結果、当初計画より１年延長し、2006年度まで新規採用を行うことになりました。

ジトーミル国立大学（旧ジトーミル教育大学）や農業生態大学の場合、2006年度採用の奨学生が卒業するのは2010年春になります。

２．今年度採用奨学生 決定！

今年度採用の奨学生が正式に決定され、履歴書と作文が届き始めています。

ジトーミル国立大学のムィロスラーヴァ・ルキャネンコさんは、ヴェルィキ・クリシ村（本誌によく登場するサマショーロのナースチャおばあさんが住んでいる廃村）に事故後５年間住んでいた彼女のおばあさんのことを、書いています。誌面の都合で、ここでは内容の紹介はできませんが、そのほかの奨学生のものを含め、次号以降に紹介したいと思います。

（田中）

移住者村診療所からのメッセージ

今秋、「草の根支援」による医療機器の配置・据付が完了した移住者村診療所から、喜びの声が届きました。

＜滅菌器＞

■コルニン村病院医師　ヴァシーリイ・フョードロヴィチ・デヤチェンコさん

私たちは、支援にこの上なく感謝しています。この支援で『心電計・人工呼吸装置「アンブ」・血糖値測定器「グリュコフォト」・ポータブル歯科ドリル・加圧滅菌器』をいただきました。これらによって、治療の質が顕著に改善され、患者をその場で治療することができます。もう、地区病院まで行かなくてもよいのです。この村には2,400名の住民がいます。村の住民と病院職員全員から日本国民の皆さんに、限りない感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

■ブロフキ村診療所所長　ヴァシーリイ・ドミートリエヴィチ・ヤシンスキーさん

医療機器の希望申請書を提出するように言われた時には、支援してもらえるということがあまり信じられませんでした。しかしその後、日本大使館とホステージ基金の方々が来られたので、支援していただけることに確信が持てました。そして今、すでに機器があります。16,000グリヴナ（約40万円）相当の支援をいただきました。『アンブ・グリュコフォト・遠心分離機・ポータブル歯科ドリル・吸入器・心電計・滅菌器』です。「グリュコフォト」と「歯科ドリル」は、特にうれしい支援です。ここから地区病院までは遠いですから、うちの患者たちはとても助かります。

ここの人たちは、新しい機器を「日本の」と言っていて、それで治療すると非常に効果があると思っているんですよ。そういう心理的な要素も大事なんです。つまり、日本の方々のチャリティー精神が、それだけですでに治療効果を発揮しているわけです！

■ゴロディシェ村准医師・助産婦駐在所准医師　ニーナ・ニコラエヴナ・メリニクさん

まず申し上げたいのは、支援に大変感謝しているということです。何よりもまず、大使館の方が来られたということで、村の行政は「駐在所の建物にガスを引かなければ」という気になりました。もうすぐ冬ですが、おかげで駐在所は寒くありません。私たちは、13,000グリヴナ（約33万円）相当の機器をいただきました。もちろん、自力ではとても入手できなかったでしょう。村の予算は、なんとか職員の給料を払える程度のものなんですから。

この村は、地区の中心からは遠いので、病気になっても誰もが地区病院まで行けるわけではありません。しかし今では、『吸入器・超音波照射器・超高周波治療器』があるので、ここで治療することができるようになりました。

もちろん、機器はもっとたくさん申請したのですが、いただいたものだけでも非常に効果を上げています。私たち職員も村の人たちも喜んでいますし、村人520人のほぼ3分の1は移住者なのですが、彼らもとても喜んでいます。

特集

野崎助教授「チェルノブイリ救援・中部」を斬る!!

―「組織評価」ということと「組織の成熟」ということ―

名古屋NGOセンター理事
日本福祉大学助教授　野崎泰志

1. Institutional Sustainability（組織の持続性）比較分析

本会（チェルノブイリ救援・中部）に関して、右表のように、「組織規模（O）」「機構・制度（I）」「活動形態・練度（E）」「技術・専門性（P）」「動機・戦略性（S）」「財政規模（B）」について、五段階評価を行った（第一次分析）。これを用いて、以下の第二次分析を行った。

基礎体力指数（Fi）$=O\times4^2+I\times3^2+E\times4+P+S$

行動力指数（Ai）$=O+I+E\times4+P\times3^2+S\times4^2$

組織健全度指数（Hi）$=Fi/Ai$

財政負担度指数（Wi）$=B/Hi$

これは、JANICの『NGOダイレクトリー』に掲載されている公開情報だけを使って、NGOの組織評価を行う手法で、1997年頃に私が開発したものである。最終的には、多数の組織を比較検討し、更に第三次分析として、標準化指数を用いて総合指数を出し、その順にランキング表を作成、それらをAaa～Eまで15段階に評価する。今回は、別途分析した第三次分析表（省略）に照らして見た結果、本会は、右表のように、組織健全度においてはBaランク、財政負担度においてはCランクとなった。

【チェルノブイリ救援・中部の組織評価】

＜第一次分析＞（5段階評価）

O　組織規模	3	
a 会員数		4
b 収入源の数		0
c 助成金割合		▲1
I　機構・制度	3	
a 事務管理費割合		3
b 意思決定機構		0
c スタッフ		0
E　活動形態・練度	4.5	
a 設立後の年数		4
b 事業形態の種類		0.5
c 海外事務所		0
P　技術・専門性	4	
a 事業対象分野の数		3
b 技術専門家の有無		4
S　動機・戦略性	3.5	
a 対象国の数		2
b 海外協力団体の数		1
c 定期刊行物の数		0.5
B　財政規模	2	

＜第二～三次分析＞（Aaa～Eの15段階評価）

組織健全度指数	0.92	Baランク
財政負担度指数	2.17	Cランク

ここに言う「組織健全度指数」とは、財政規模を除く五つの指標のうち、組織の基礎体力（OからSまで並べてO側の要素）が、行動力（S側の要素）に釣り合っているかどうかを意味する。（そのために、上下に比重をかけて指数を計算し、比較している。）行動力ばかりが体力以上に先走ると、前のめりになって破綻しがちである。例えば、自己資金より助成金が急激に増える段階で、健全度が下がる。また、「財政負担度指数」とは、財政規模とは関係なく、組織健全度に相応する財政規模であるかどうかを判定する。

本会のBaランクというのは、日本のNGOの中で上位15%あたりに位置していることを意味し、そのあたりまで財団法人や老舗の団体が多い。財政負担度はちょうど中位に当たっており悪くない。

2. 長所と短所

本会の、組織としての短所は、第一に助成金割合が高いこと、第二に、複数の団体の連合体であることで会員制度を持たず、従って総会がないことで、役員会に当たる運営委員会の意思決定によって政策が偏向する可能性があることである。長所は、支援者の数が多いこと、

活動形態や熟練度において秀でていること、技術協力専門家が少なく専門性に引きずられていないことなどである。

財政規模については、現在の体力にちょうど匹敵しているが、規模が縮小して来ているということは、従来は無理をした財政で走ってきたものと思われる。そのころに同じ組織評価をしていれば、「活動は活発であるが組織健全度は低く、財政負担度も高い状態で綱渡りをしていた」という姿であったと想像される。これは、こういう外部評価で示される姿であるので、会の皆さんの主観としては、今も同じように綱渡り状態と思われる。

3. 開発協力 NGO の成熟とアプローチ戦略

D.コーテン氏の「NGO の発展段階論」は良く知られている。緊急援助から入って開発支援へ、そして対等な南北 NGO の関係へという流れは、大筋において普遍的に観察される。私は更に、アプローチ戦略の成熟という観点から、以下の五段階を想定して、各団体を見ることにしている。

成熟 ↓

① Pin Point Approach（特定の対象にアプローチする）
② Community Based Approach（地域社会へサービスを広げる）
③ Intermediary Approach（中間組織として情報や資源の仲介にあたる）
④ Partnership Approach（対等なパートナーとして相手方と提携する）
⑤ Advocacy Approach（両国政府や投資企業へも政策提言する）

この観点から見ると、本会は粉ミルクの緊急救援（①）から始まり、医療・教育・保健へと徐々に第二段階（②）の地域展開に入ってきていると言えよう。また、草の根無償の現地採択についても助言を行っており、第三段階（③）の緒についたとも言える。

今後は、「チェルノブイリの人質基金」との対等な関係性の構築（④）、現地の政策環境の研究とそれに対応した政策提言（⑤）などが、本会としての成熟に求められていよう。

4. Participatory Learning & Action (PLA) ：参加型学習と行動計画

今日までの本会の歩みは、現地からの要請をベースに資源の公平配分を期し、またカウンターパートとして公立病院を中心に据えて来た。その意味で、性格として ODA に近いアプローチを採って来ている。その結果、絵画展やクリスマスカードなど、一部では特筆すべき心のケアーまで行っておりながら、エンドユーザーの被災当事者との接触は比較的少ないまま、現地行政サービスの部分的補完に資源の多くを投入している。

被災した当事者の参加、それに伴う双方の学習、そしてそれを基礎にした確固たる行動計画、という PLA の流れを、今回の「診療所支援プロジェクト」を機に進めていくことが、本会の将来像を描く上で重要であろうと思う。

5. 提言

ミッション（使命）は変わらなくても、戦略は時代に応じて変化するものである。構成メンバーの最大公約数的な政策選択しかできないままでいると、新しい仲間はなかなか増えないものである。政策提言力をつけた上で、医療援助は ODA に振って、村レベルの被災者たちと顔の見える支援体制を作り直すという転機に来ていると思う。それは、予算規模に一喜一憂しないで、地道に持続させる道を選ぶということでもある。そのための組織的体力は充分ある。ビジョンの再構築によって、国内のネットワークを更に強化できるかどうかが鍵であろう。

<ナロジチ病院の院長・副院長を囲んで>

大人のみなさん、子ども達のために すばらしい未来を築いてください！

アリーナ・レウーツカ 9歳
児童芸術学校「キエフのカシタン」所属

“チェルノブイリ”は、とても重大な危険性を持っています。
4月26日の真夜中、「原子力発電所の爆発」という事故が起こりました。
多くの人が自分の家を後にし、誰もそのことを忘れることができません。
今、チェルノブイリは･･･
ウクライナのすべての町の空気に深刻な汚染をもたらしています。
植物が枯れていきます。
汚染された空気を吸う人々も亡くなっていきます。
大いなる病が地上に現れ、人々は重い病気にかかり始めました。
専門の医師たちでさえ、その病気をなおすことができません。
ただ一つの薬――それはきれいな空気です。きれいな空気は、植物のおかげでできますが、今、植物がなくなっているのです。

未来に期待をかけなければなりません。
子ども達は、自分の未来が以前と同じようであることを望みます。
彼らは、一生家族とともにすごしたいのです。
彼らが望むのは･･･
汚染されていない空気です。
人々が死んでいかないことです。
植物が青々として、花を咲かせることです。
すべての庭ですばらしい桜の木が、はなやかな彩りをそえることです。
泳ぐことのできる池があることです。
魚つりのできる池があることです。
しし鼻の明るい太陽がまた村々を眺め、
小さな子ども達に言葉を教えるかのように、
子ども達の顔にほほえみかけることです。
白い、清潔な、美しい家々です。

もし将来、人々が私たちの土地を、
またとないすばらしいものにするなら、
私たちの母なるウクライナへの愛もよみがえるでしょう。

大人のみなさん、
子ども達の声に耳をかたむけてください!
チェルノブイリの子ども達は、
チェルノブイリに反対しています！

連載 42

原発廃炉の時代に要注意

1970 年、大阪万博に始まった日本の原子力時代も、ようやく「終わりの始まり」を迎えつつある。原発はいずれ寿命を迎えるが、新たな原発を作っていこうという機運は、世界的にももうない。徒労に終わる核燃料サイクルの夢を追いつづけているのは、世界でも日本ぐらいのものだ。しかし、その間にも、廃炉と放射性廃棄物は増え、その後始末に今後膨大なお金と労力が必要となる。こうした、廃炉により発生する膨大な放射性廃棄物の処理費用を、安上がりにするために、政府は極低レベルの放射性廃棄物の「スソキリ処分」という新たな対策を目指している。それは放射能を放射能でないと言いくるめ、事実上私たちの生活環境にばら撒くものだ。原子力の最後のつけは、結局私たちが払うことになるのだろうか。

廃炉で出る放射能

原発は、30～40 年間の運転中に、炉心で燃える核燃料から出る中性子で炉材が放射化されたり、燃料が燃えて出来る放射性廃棄物で汚染したりで、炉材が放射能で汚染される。これらは、廃炉になれば全て放射性廃棄物となる。一例を挙げれば、平均的な 100 万 Kw の原発が廃炉になれば、約 20 万m^3（50 万トン）もの鉄材や廃コンクリートが、放射性廃棄物となる。53 基ある日本の原発が全て廃炉になれば、600 万m^3 という途方もない量の廃棄物が出る。これをまともに放射性廃棄物として処分すれば、1 基の原発で処理費が 6,000 億円はかかると計算されている。

原発の建設費は 2,000～3,000 億円だから、廃炉にはその倍以上の費用がかかることになる。こんなことは、原発建設当時は誰にも知らされなかったのである。

この費用をまともに電気代に含めれば、原発の経済性は全くなくなることは明らかである。その上に、燃え滓の核燃料廃棄物の処分費用が重なる。

放射能を普通ごみにする「クリアランスレベル」

そこで考えられているのが、これらの大量の放射性廃棄物を一般ごみとして処分してかまわない、とする「クリアランスレベルの設定」である。即ち、ごくレベルの低い放射性廃棄物は、放射性廃棄物とせず普通のごみとして捨ててしまう。そのために、基準を決めようというのである。普通ごみとなれば、コンクリートは公園や海岸の埋め立てに使ったり、鉄材は製鉄所に送って鍋や食器、机などの原料にしてかまわないことになる。

これは、放射性廃棄物としてお金をかけて処分するものと、そうでない物を分ける、いわゆる「スソキリ」である。実は、廃炉放射性廃棄物 50 万トン の 98～99%は、こうした基準以下の一般ごみになると推定されている。それによって、廃炉費用は 20 分の 1 の 300 億円程度に圧縮される。

原発の電気代が火力発電と肩を並べていられるのは、放射能を「放射能でない」とする詭弁に基づいているのである。

「スソキリ」の実際はどうなる？

スソキリの基準レベルは、人間の被曝が自然放射線による被曝と比べて、「有意に高くないレベル」とされる。これが曲者である。この考えの基本にあるのは、外部被曝による障害である。そのため、H_3（トリチウム）や C_{14}(炭素 14)などのようなベータ線廃棄物は、大幅に基準がゆるくなる。例えば H_3 を例にとれば、200 ベクレル/g という高いレベルが基準になる。こんなレベルの H_3 を含む物質は自然界に存在しない。自然界の H_3 は、過去の核実験の影響で海水が最も多いが、それでも 0.001～0.002 ベクレル/g 程度である。即ち、政府のいう安全レベルは、自然界の 10～20 万倍になる。スクラップとして処理される鉄の基準は、ガンマ線を出す Fe_{55}（鉄 55：半減期 2.7 年）や Ni_{59}（ニッケル 59：半減期 100 年）で 10,000 ベクレル/g になる可能性がある。このようなものが、私たちの生活の中に侵入してくることになる。廃炉の時代は、私たちにとって新たな放射能との戦いの時代でもある。放射能のスソキリを許してはならない。

（河田）

竹内さんのウクライナ便り

10月31日の大統領選挙の結果は、11月3日に中央選挙管理委員会の中間発表（開票率 97%）で、現首相ヤヌコーヴィチ氏39.88%、野党派閥「我らのウクライナ」代表ユシェンコ氏が 39.22%という数字が出た後、「コンピュータ・システムの故障や地方選管の報告書類の不備」が原因で集計が大幅に遅れ、憲法に規定された期限ぎりぎりの 11月10日に、最終結果発表がありました。

それによると、ヤヌコーヴィチ氏 39.32%、ユシェンコ氏 39.87%。第3位の社会党党首マローズ氏（得票率 5.83%）は、ユシェンコ氏と政策協定を結び、11月21日の決選投票に向けてのユシェンコ氏支持を表明しました。

協定の中には、例の憲法改正案（大統領の権限を縮小し、最高会議の権限を強める）を来年 1 月 1 日までに最高会議で可決し、2006年1月1日までに施行する、という項目も含まれています。第4位のシモネンコ氏（得票率 5.03%）が率いる共産党は、決選投票の2候補のいずれをも拒否する大会決議をしました。

ロシア共産党の党首ジュガーノフ氏は、ヤヌコーヴィチ氏支持の姿勢を明らかにしていますが･･･。

第1次投票に際しては、選挙人名簿の不備（投票所に行ったら、自分の名前が名簿にない。あるいは名前が間違って登録されている）、同一人の重複投票や、代理投票などの選挙違反が指摘されており、集計に時間がかかったのも、投票数のごまかしに手間取っていた、あるいはユシェンコ氏優勢の発表を最後まで引き伸ばしていたのでは、との臆測がなされています。

しかし、体制側のあらゆる手段を用いてのヤヌコーヴィチ氏支持・ユシェンコ氏攻撃にもかかわらず、ユシェンコ氏が善戦したのは、現体制に対する国民の嫌気の表明といえるでしょう。

10月28日、6つのTV局の職員が、選挙報道に関する体制側の圧力に抗議する声明を発表。間もなく、この声明に同調するTV関係者が200名を超え、その影響もあってか、現在では政府系のTV局のニュースでも、ユシェンコ氏が画面に登場しています。

しかし、「某市で選挙がらみの喧嘩があり、ヤヌコーヴィチ氏支持のA氏が、ユシェンコ氏支持のB氏に殴打され入院した」、「公正な選挙を求める青年組織のメンバーがキエフに借りたアパートで、流血の争いがあり、調べに対して、メンバーたちはユシェンコ陣営から資金援助を受けたことを認めた」といった、どう見てもでっち上げ、あるいは少なくとも加工された低次元の情報が、政府系TV局のニュース番組では流され続けています。

大手国営企業では、「ユシェンコ氏が政権を握れば、90年代の経済混乱が戻ってくる」と、従業員を巻き込んだヤヌコーヴィチ氏支持キャンペーンが行われています。しかし、90年代の混乱の中、うまく立ち回って甘い汁を吸い肥え太ったのが、現政府の政治家たちとその周辺の財閥だ、という多くの国民の認識は変わらないでしょう。　（11月14日）

NPO法人チェルノブイリ救援・中部　2004年度上半期収支報告書

(2004・4・1～2004・9・30)

収入の部		
項　　目		金額(円)
救援寄付金		1,956,094
個人(194件)	1,954,094	
団体(1件)	2,000	
運営費関連寄付金		239,000
個人(32件)	228,000	
団体(2件)	11,000	
外務省ＯＤＡ補助金		0
地方公共団体交付金		0
民間助成金		1,700,000
物品売上等		55,995
預金利子等		407
現金過不足		0
当期収入合計		3,951,496
前期繰越		12,885,964
収入総額		16,837,460

支出の部		
項　　目		金額(円)
事業費		5,968,238
医療機関支援事業費		2,250,000
医療機器メンテナンス事業	450,000	
医薬品提供事業	1,800,000	
保健事業費		1,200,000
粉ミルク提供事業	1,200,000	
被災者団体等支援事業		600,000
特別事業費		113,362
市立小児病院コンピュータ支援	113,362	
奨学金事業費		0
スタッフ派遣費		536,970
業務委託費		449,915
駐在員費		249,890
輸送費		0
文通・クリスマスカード事業費		0
海外監査費		0
機関紙発行費用		567,101
国内監査費		0
イベント参加費		1,000
管理費		1,345,024
役員報酬		330,000
人件費		356,000
通信費		102,534
印刷製本費		14,709
旅費交通費		133,080
会議費		9,552
消耗什器備品費		358
消耗品費		18,889
修繕費		17,952
事務所費		269,636
支払手数料		32,604
為替差損・両替手数料		3,710
諸謝金		4,000
団体会費		30,000
雑費		22,000
当期支払い合計		7,313,262
当期収支差額	-3,361,766	
次期繰越収支差額		9,524,198
支出総額		16,837,460

上記期間の収支報告書を監査した結果、異常なく正当に処理されていることを証明します。

2004年10月23日　　監査人　南　和也

今年度上半期の事業は、ほぼ予定どおり執行されました。医薬品提供事業が予算をオーバーしていますが、これは、カタログハウスの"チェルノブイリ母子支援募金"の分配を受けることができたからです。
奨学金事業費 130 万円は、下半期に執行(送金)されます。 収入面では、寄付金がやや低調で、補助金・助成金は予定どおりです。これからかき入れ時の年末にむけて、収入増にさらに努力するつもりです。(田中)

事務局便り

そろそろストーブが必要になりかけている。早いもので、この事務所で慣れない会計業務を始めた昨秋から、はや一年が過ぎた。それ相応になんとかこなせるようになっているが、ただ与えられた仕事だけをこなすのがNGO・NPOの仕事ではない。現在の状況をどう変えていくか、何が足りなくて何を作っていくべきなのか、そういった先の発展を見据えながら新たな線路を引いていくのが僕たちの役割だと考えている。むろん、さまざまな障害を乗り越えていかなくてはならないのは確かで、日々雑務に追われながらそれ以上の力を出していくのは、年齢とともに、だんだん難しくなってくる。だが、そこでひるんではならない！勇気を持って道を切り拓くことなくして、なんの未来が芽生えようぞ！　その心意気だけは、いつまでもなくさないでいたいと思う。自分はここから去る日も来ようが、いつでも気合で周りに元気を生み出すような存在になって、みなの記憶にとどめてみせよう。（笑）　でもみなさん、自分の身体だけはきちんと管理しましょうね！　最近硬くなった体を持て余してます…。（石川）

豊明市国際交流協会設立10周年記念

「ワールドフェスタ～ボーダレス地球市民～」

10月23日（土）に開催されたフェスティバルに、参加しました。ブースに来てくださった方々は、目新しい民芸品に興味を持ってくださいましたが、かつて、ウクライナ国で事故があったことを記憶している人の少ないこと！

やっと「チェルノブイリ」と聞いて、「そういえば･･･。」と思い出してくださる方に少し安堵するような気持ちでした。現地の人々が「忘れ去られているのでは？」と不安になる気持ちを、私達は共有しているんだなぁ･･･と改めて確信しました。

今回のウクライナ民芸品バザー売上は、12,967円でした。ありがとうございました。（美）

・　・　・　・　・　・　・　・　・　・　・　・　・

＜訂正＞前号で、ウラディーミル・アルチュフ氏の勤務病院を「オブラスト成人病院」と紹介しましたが、「ジトーミル州立成人病院」の誤りでした。お詫びして訂正します。

編集後記

☆2週間くらい前から、家の中に棲みついている小さい蜘蛛は、だんだん動きが敏捷になっている。うちには餌になる生物が豊富にいるってこと？　掃除しなくちゃ…。（佳）

☆11月1日から「運転中の携帯電話使用に罰則」が、課せられるようになった。この頃、ドライブモードにしたまま、居留守を使うことを覚えた。悪気はありません、決して！　（美）

☆名古屋で「NGOのつどい」があり、手作りの食事を楽しみながら交流した。悩みを聞きあったり、経験や知恵を伝授しあったり、NGO同士が『援助』し、励ましあった。（京）

☆40年前、「薄めて捨てれば大丈夫！」とばかりに有害物質を垂れ流し、水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息などの公害を引き起こした。今また「核のゴミ」で同じ過ちを繰り返そうとしている。「総量規制」＝「発生源（原発）停止」しかない。（J）

〒456－0022　名古屋市熱田区波寄町　20-14
印刷「エープリント」
TEL・FAX　（052）871－9473